

平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人岡山大学

1 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を基本目的に掲げている。第2期中期目標期間においては、国際的に上位な研究機関となることを指向するとともに、社会の多様な領域において主体的に活躍できる人材の育成等を通じて、「学都・岡山大学」として中国・四国地域における中核的な学術拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、「植物遺伝資源・植物ストレス科学」分野において世界最先端の研究を展開するため、国立研究開発法人理化学研究所とクロス・アポイントメント制度に関する協定を締結するほか、近年ニーズが高まっている医用工学に対応する生命医用工学専攻を新たに大学院自然科学研究科に設置している。また、大学がプラットフォームとなり、地元自治体等と連携して岡山の社会が抱える課題解決を図るための「おかやま地域発展協議体」を設置することを決定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、次のような「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

- 新たな教育研究組織「高等教育開発推進機構」において、教育課程・教育方法の検証とその全学的導入を支援し、大学のグローバル化及びアウトカムに重点を置く教育を推進する計画を定めている。

平成27年度は、「60分授業」及び「クォーター制」の導入に向け、学事歴の変更等の制度設計、学則等の規則改正を行っているほか、アクティブ・ラーニング普及のため、授業方法を検証するチェックシートを作成し、教育システムの再構築の参考となる各種の講演会やワークショップを開催している。

- 「PRIMEプログラム：世界で活躍できる実践人を育成する！」構想の実現に向け、グローバル実践型教育の試行やグローバル人材育成特別コースの定員拡充、医療工学分野の強化等を推進する計画を定めている。

平成27年度は、ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）Co-opプログラムを受け入れ、同大学の学生2名と岡山大学の学生9名を林業関係機関における森林利用グローバルインターンシップに派遣する「グローバル実践型教育プログラム」を実施しているほか、医療工学分野の強化のため、大学院自然科学研究科に生命医用工学専攻を設置している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

強みを生かした教育研究分野の強化を図るため、大学院自然科学研究科を改組し、近年ニーズが高まっている医用工学に対応する生命医用工学専攻を新たに設置するとともに、「植物遺伝資源・植物ストレス科学」分野において世界最先端の研究を展開すべく、国立研究開発法人理化学研究所とのクロス・アポイントメント制度に関する協定を締結し、特別契約職員教授1名を雇用している。また、教育関係の機構・全学センターを統一したガバナンスのもとで効果的に機能させるために、関係2機構・7センターを全学教育・学生支援機構として平成28年度から統合することを決定するなど、社会の変化に対応した教育研究組織づくりに向けた取組を進めている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○		
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程において学生収容定員の充足率が90%を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 教員再配置システムによる学内資源配分の最適化

学長のリーダーシップの下、学部・研究科等部局ごとに学内共通事業への貢献度等を考慮して配置済みの教員ポストを配置し直す「教員再配置システム」を新たに構築しており、これにより戦略的ポストを全学から捻出し、教育改革教員として教育のグローバル化の推進等に9名を措置している。

○ 女性教員特別昇任制度の導入

女性教員の上位職登用を円滑に推進し、優秀な女性研究者の雇用・育成を促進するため、おおむね5年以内に上位職への昇任が可能と評価された准教授・講師・助教の女性教員を対象に、昇任ポストの空きを待たずに前倒しで上位職に登用する「女性教員特別昇任（ポストアップ）制度」を新たに構築し、1名に対し准教授から教授への上位職登用を行っている。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 学生定員の未充足

平成26年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成26年度から平成27年度において90%を満たさなかったことから、今後、速やかに、学長のリーダーシップの下、定員の充足に向けた抜本的な対応が求められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ シリコンバレーオフィスの活用等による知財収入確保

知的財産本部米国事務所を基盤として平成27年11月に開設した岡山大学シリコンバレーオフィス（OUSVO）を活用し、海外企業4社との技術移転活動を進めるとともに、国内企業21社を訪問し、企業トップや知財担当者等との面談を実施している。加えて、特許権を共有する共同研究実施企業55社に対し、共有特許の譲渡や今後の連携について提案を行っており、これらの取組の結果、年度の技術移転成果総額は約2,900万円と大学として過去最高額となっている。

○ コンソーシアムによる産学官連携活動の推進

中国地域の大学等が持つ知的資源の一元化やイノベーションの創出を目指す「中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）事業」の事務局として活動を推進し、同コンソーシアムのウェブサイト及びコーディネータを通じた研究シーズと企業ニーズのマッチング等に取り組んだ結果、約2,500万円の共同研究・受託研究を受け入れるなど、昨年度に引き続き安定的な産学連携収入につなげている。同コンソーシアムの研究シーズデータベースの提供やマッチングイベント等の成果が評価され、平成27年度産学連携学会業績賞を受賞している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 全学的な広報推進体制の整備

全学的な広報戦略の企画立案、組織的な展開を行う広報戦略本部を設置し、広報分野での実務経験に基づき機動的に判断ができるユニバーシティ・パブリック・リレーション (UPR) を副本部長とする広報戦略会議を設けている。また、実施機関である広報推進会議を設置し、その構成員として学内各部署から広報担当の教員を選任することで、全学的に広報戦略を推進する体制を整備している。この体制の下、大学のVI (Visual Identity) の確立や広報物の統一等ブランド力向上のための取組を推進している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②環境管理、③安全管理、④法令遵守、⑤大学支援者等との連携強化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 自学自修のためのICT教育環境整備と教育支援

学生指導に関わる教員間での情報共有や、迅速できめ細やかな学生指導に資するため、学生が実習内容の記録等に活用できるeポートフォリオ機能をe-learningシステム「WebClass」に実装し、全学で利用可能にしている。また、e-learningによるオンライン授業を普及させ、事前学習と復習を前提とした授業作りを促進するため、知的財産管理や著作権について教員研修を実施するとともに、多様なメディアを高度に利用して行う授業の実施等に関する基準及びガイドラインを制定している。

○ 大学が中心となった地域社会の組織連携体制の構築

岡山の社会が抱える課題解決を図るため、大学がプラットフォームとなって、岡山商工会議所、一般社団法人岡山経済同友会、岡山県、岡山市、倉敷市、中国銀行、山陽新聞社と協働して、各組織が持ち寄った情報や地域の課題に関する施策を展開し、また、「人口ビジョン」、「地域創生総合戦略」が目指すKPIの実現にあたる「おかやま地域発展協議体」を設置することを決定している。

○ 若手研究者の育成支援

若手研究者に複数の海外研究機関訪問に係る旅費を支援することで、海外のトップレベルの大学・研究機関の研究者らと研究セミナーやディスカッションを行い、研究成果を積極的に発信する力を身につけさせるとともに、共同研究の種を発見し、国際的な研究ネットワークを新たに形成することを支援している。平成27年度には、6名の若手研究者を欧米のトップレベルの大学・研究機関に派遣している。

共同利用・共同研究拠点関係

○ 他機関との連携による共同利用・共同研究体制の整備・充実

資源植物科学研究所では、若手研究者育成のため、国内外の研究機関との協力により、国際植物科学研究トレーニングコースを開催するとともに、クロス・アポイントメント制度を用いて植物のゲノム科学・情報科学分野の研究者を招へいするなど、他機関との連携による体制の整備・充実を図っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 地域の造血幹細胞移植医療体制の強化

平成27年8月に厚生労働省の造血幹細胞移植医療体制整備事業の対象施設に認定され、中国ブロックで唯一の認定施設として、内科医、小児科医、看護師、造血細胞移植コーディネーター等を対象に実地研修及び見学を実施しているほか、他病院から医師1名、看護師2名の受入研修を行うなど、造血幹細胞移植に関する人材育成に取り組んでいる。

(診療面)

○ 専門外来の開設によるがん治療の充実

手術によって舌の大半を失った舌がん患者に対して、新しい人工舌装置による治療を進めるため、「夢の会話プロジェクト外来」にて診療を開始しているほか、がん細胞の遺伝子異常を網羅的に検査し、適切な治療が無いがん患者や抗がん剤が効かなくなったがん患者に適した治療薬を見つけることを目指す「抗がん剤適応遺伝子検査外来」を設置している。また、がん陽子線治療センターで陽子線治療を実施した患者の定期的な診察を行う「放射線治療・陽子線治療外来」を開設するなど、がん治療の充実を図っている。

○ 拠点病院としてのてんかん診療の更なる推進

岡山県からてんかんの診療拠点機関に新たに指定され、小児専門看護師と社会福祉士をコーディネーターとして置き、適切な医療機関を紹介するとともに、医師や患者、その家族らでつくる連携協議会を設立するほか、他の医療機関を含めた医療従事者を対象にした研修等を実施している。

(運営面)

○ 経営指標等の分析に基づく経営改善に向けた取組

迅速かつ適切な経営判断の実行や、病院収入の確保のため、収益や変動費等の各種経営指標を経営戦略会議に報告するとともに、これらの分析結果を診療科等にフィードバックして収入確保、診療経費の抑制、経営改善に努めているほか、新たに管理会計による診療科ごとの原価計算を実施し、分析結果を経営戦略会議・執行部会議に報告して経費の診療科への配賦ルールの見直しを図り、より精緻なものに改良を行っている。